

公益社団法人日本臨床工学技士会 法人設立20周年記念講演会・式典

2023年3月11日(土) 13:00~17:00
京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿2-2-1)

日本臨床工学技士会は、1990年に任意団体として設立され、1992年に社団法人化、さらに2012年4月に公益社団法人となった。法人設立20周年を記念して、2023年3月*に記念講演会・式典が行われた(図1)。以下に、記念講演会および式典の概要を報告する(敬称略)。

*コロナ禍のため、昨年から時期をずらして行われた。



図1 記念講演会・式典会場の様子

1. 記念講演会

1) 講演1「日本・世界の医療、次を考える」

座長 内野 順司 公益社団法人日本臨床工学技士会 副理事長

講師 三宅 邦明 株式会社ディー・エヌ・エー CMO (最高医療責任者)
兼 CHO (最高健康責任者)

医療をDX化することで効率化し、医療者は本来すべき業務に集中できるようになる。医療機器・医療ITの市場は非常に大きく成長している。SaMD (Software as a Medical Device) において、日本がアジア市場の拠点となることを期待したい。

2) 講演2「医療機器の進歩・臨床工学技士の活躍」

座長 山下 芳久 公益社団法人日本臨床工学技士会 副理事長

講師 吉野 秀朗 医療法人財団慈生会 野村病院 病院長
杏林大学医学部循環器内科 客員教授

医学や医療機器の進歩やタスク・シフト/シェアにより、医療現場は大きく変化している。臨床工学技士の業務種類も増加し、さらに深い知識と経験が必要となってきた。医療機器の進歩を見通した研究ができるような技士を増やすために、卒前教育を充実させ、また卒後教育体制を整えることが重要である。



図2 座談会



図3 理事長による開会挨拶

2. 座談会「今 臨床工学技士がなすべきこと -医師の働き方改革の推進に向けて-」(図2)

モデレータ	吉野 秀朗	医療法人財団慈生会 野村病院 病院長 杏林大学医学部循環器内科 客員教授
	青木 郁香	公益社団法人日本臨床工学技士会 専務理事
スピーカー	神村 裕子	公益社団法人日本医師会 常任理事
	太田 圭洋	四病院団体協議会・一般社団法人日本医療法人協会 副会長
	本間 崇	公益社団法人日本臨床工学技士会 理事長
	野村知由樹	公益社団法人日本臨床工学技士会 副理事長

これまでの臨床工学技士の歴史のなかでの業務変遷，タスク・シフト/シェアにおいて臨床工学技士にどのような業務をさせたいか，臨床工学技士に期待される役割は何か，告示研修などについて討議。

3. 記念式典

本間 崇(公益社団法人日本臨床工学技士会 理事長)による開会挨拶(図3)および来賓祝辞の後，川崎忠行賞，職員永年勤続の表彰が行われた。

国家資格としての臨床工学技士が誕生してから30年以上が経ち，臨床工学技士が担う業務および働く場が拡大した。チーム医療の一員として，今後もさらに重要な役割を担っていくことになるだろう。

(株)Gakken クリニカルエンジニアリング編集室